

いとしま

防災 まなびブック



かんしゅう きゅうしゅうだいがく
監修：九州大学
みたに やすひろきょうじゅ
三谷泰浩教授

■いとしま防災まなびブックに掲載している文章、画像などについて、事前の許諾なく無断で転載、複製、転用などの二次利用を固く禁じます。

もくじ

はじめに	01	避難地図	18
1 過去の災害を知ろう！			
【豪雨災害の事例①】	02	防災で必要なもの一覧	19
【豪雨災害の事例②】	03	備蓄品・ローリングストック	20
【地震災害の事例】	04	ケガの応急処置	21
【地震・津波災害の事例】	05	避難所での過ごし方	22
【糸島市をおそった災害】	06		
2 災害に備える			
マイタイムラインをつくろう	07	3 災害を学ぶ	
わが家のマイタイムライン例	08	風水害①	23
わが家のマイタイムライン	09	風水害②	24
警戒レベルとは？	10	風水害③	25
ハザードマップとは？	11	台風・豪雨時の土砂災害	26
ハザードマップの種類	12	高潮・竜巻・落雷①	27
気象庁から的情報をキャッチしよう①	13	高潮・竜巻・落雷②	28
気象庁から的情報をキャッチしよう②	14	地震①	29
気象庁から的情報をキャッチしよう③	15	地震②	30
エリア別の災害	16	地震③	31
マイタイムライン作成のためのチェックシート	17	地震④	32
		津波	33
		ことばの説明・出典	34・35

※が付いていることは 34・35 ページに説明があります。

いつ来るかわからない

災害から

自分を守る術を学ぼう！

もしも今、**いま** 急に**きゅう** 地震**じしん** が**き** 来たら。台風**たいふう** や**ごうう** 豪雨**おも** で**おも** 思いがけず
大きな被害**ひがい** に遭**あ**つたら。あなたはどうしますか？

そのための備えや知識**そな** は十分**ちしき** ですか？
このハンドブックは、いつ来るかわからない**さいがい** 災害**じし** から
自分の命**じぶん** を自分で**いのち** 守**まも**る方法**ほうほう** を学ぶためのものです。

まずは一度**いちど** 読んでみて、
家族**かぞく** や**とも** 友だち**たいせつ**など大切な人**ひと**といっしょに使えるよう、
みんながわかりやすいところに置いておきましょう。

1 過去の災害を知ろう！【豪雨災害の事例①】

平成29年7月 九州北部豪雨



災害について

2017年7月5日から6日にかけて、対馬海峡の近くにていたい
停滯した梅雨前線の影響などにより線状降水帯が発生して
起こった災害です。

九州北部地方では7月5日から6日までの24時間の最大
雨量が多いところで500mmを超え、福岡県朝倉市や大分県
日田市では、これまでの観測記録を塗り替える大雨となりました。

線状降水帯 Go! P23

おもな被害

- 福岡県・大分県で死者40名、行方不明者2名
- 多くの家屋が全壊・半壊や床上浸水の被害にあう
- 電気などのライフライン、道路や鉄道、地域の基幹産業である農林業に甚大な被害が発生
- 朝倉市・東峰村・日田市では道路崩壊、家屋流出、橋梁流失、土砂流入などの被害が発生
- 発災直後には2000名を超える人々が避難生活を送った

heisei neñ gafu góou
平成30年7月豪雨さいがい
災害について

ていいたい ぜんせん たいふう ごう えいきょう にしにほん ちゅうしん
停滞した前線や台風7号の影響で、西日本を中心とした
ひろ はんい きろくてき おおあめ ひろしまけん どせきりゅう はっせい おかやまけん
広い範囲で記録的な大雨となりました。

おおあめ ひろしまけん どせきりゅう はっせい おかやまけん
この大雨により、広島県では土石流などが発生。岡山県で
だいきぼ しんすいひがい はっせい えひめけん かせん はんらん※ どせきりゅう
は大規模な浸水被害が発生。愛媛県でも河川氾濫や土石流
お などが起こりました。

どせきりゅう
土石流 Go! P26

ひがい
おもな被害

- 死者237名、行方不明者8名、重軽症者432名
- 住宅被害は岡山県を中心に全壊6767棟、半壊・一部損壊1万5234棟、浸水2万8469棟
- 停電 最大約8万戸、ガス 供給停止 約290戸、断水最大約26万戸
- 最大避難者数 約2万8000名、最大避難所数3779か所

くず
がけ崩れ Go! P26

1 過去の災害を知ろう！【地震災害の事例】



平成28年(2016年)熊本地震



災害について

2016年4月14日、熊本県熊本地方を震源とするマグニチュード6.5、最大震度7の地震が発生。その後同じ震源地でマグニチュード7.3、最大震度7という大きな地震が起き、さらに熊本県や大分県を中心に震度6を5回記録するなど、規模の大きな余震がたびたび起こりました。

余震 Goto P29

おもな被害

- 熊本県・大分県で死者273名
- 熊本県・大分県・福岡県・佐賀県・宮崎県で重傷者1203名、軽傷者1606名
- 住宅被害は全壊8667棟、半壊3万4719棟、一部破損16万3500棟
- 公共施設など住宅以外の建物も、1万棟以上が被害に遭う
- 最大避難者数は熊本県が18万3882名(避難所855か所)、大分県が1万2443名(避難所311か所)
- 190件の土砂災害が発生し、道路が寸断される被害が発生
- 最大で44万5857戸が断水

へいせい ねん
平成23年(2011年)

とうほく ちほう たいへいようおき じしん
東北地方太平洋沖地震

ひがしにほん だいしんさい
(東日本大震災)



さいがい
災害について

ねん がつ にち みやぎけん おしかはんとう おき しんげん
2011年3月11日、宮城県牡鹿半島の沖を震源とするマ
グニチュード9.0の地震がきました。宮城県栗原市で
さいだい しんど みやぎけん ふくしまけん いばらぎけん とちぎけん しんど
最大震度7、宮城県、福島県、茨城県、栃木県などで震度6
きょう ほっかいどう きゅうしゅう ちほう しんど じゃく しんど
強、北海道から九州地方にかけて震度6弱から震度1が
かんそく
観測されました。

だいしんさい たいへいよう えんがんぶ きよだい つなみ
この大震災で、太平洋沿岸部を巨大な津波がおそいまし
かんそく つなみ たか さいだい たてもの かい おな たか
た。観測された津波の高さは最大9.3m(建物の3階と同じ高
いじょう みやぎけん おながわぎょこう たてもの かい おな たか
さ)以上、宮城県女川漁港では14.8m(建物の5階と同じ高
つなみ こんせき※ かくにん りくち しゃめん
さ)もの津波痕跡が確認されています。また、陸地の斜面を
か あ つなみ たか こくない かんそく しじょう さいだい
駆け上った津波の高さは、国内観測史上最大の40.5m
でした。

ひがい
おもな被害

- 死者1万9765名、行方不明者2553名、負傷者6242名
- 最大避難者数約47万名
- 住宅の被害は全壊12万2039戸、半壊28万3698戸、
一部破損75万20戸

1 過去の災害を知ろう！【糸島市をおそった災害】

平成16年(2004年)

台風第16号

白糸の滝のまわりに自生する
福岡県指定天然記念物「萬龍楓」
4本のうち、幹回り5.3m、高さ
20.9mある楓の木が強風で根元
から折れました。



平成18年(2006年)

台風第13号

二丈鹿家(当時は二丈町鹿家)
にある民家の裏山で土砂崩れが
発生。木造2階建ての物置が押
しつぶされたほか、母屋にも
土砂や木が流れ込んで本棚やタ
ンスがなぎ倒されました。



平成21年7月

中国・九州北部豪雨

7月19日から26日にかけて
大雨にみまわれ、旧前原市エリア
では1時間の雨量59mmを観測。
二丈福井(当時は二丈町福井)で
は崩れた土砂により町道がふさ
がれる被害がきました。



令和2年台風第9号

強風の影響で志摩小富士の
県道脇に立っていた鳥居が倒れ
ました。道路に散らばった鳥居
の破片に車が衝突するという被害
が起っています。



2 災害に備える マイタイムラインをつくろう

マイタイムラインとは

たいふう おおあめ じしん さいがい お だれ
台風・大雨・地震などの災害が起きたとき、「いつ」「誰が」
なに しゅうい じょうきょう じかん ぐたいてき
「何をするのか」を周囲の状況をふまえて時間にそって具体的
せいり じぶん かぞく こうどう けいかくひょう
に整理した、自分と家族のための行動計画表です。

マイタイムラインがあると ...

1 危険度がわかる

- 自分の家が浸水してしまう
- 避難所まで遠いなど



2 逃げ方がわかる

- いつ逃げる？
- 誰と逃げる？
- 危険を避けて逃げるには？など



3 慌てずに行動できる

- いざというときの行動をシミュレーションできる
- 迷いなく行動できるなど



マイタイムラインをつくるポイント

か こうずい どしゃ さいがい きけん せい
ハザードマップに書かれている洪水や土砂災害の危険性
じぶん かぞく ばあい お か さいがいじ きけんど
を、自分と家族の場合に置き換えます。災害時の危険度は、
さいがい げんしょう つよ さいがい う ひと
災害の現象がどれくらい強いかと、災害を受ける人がいる
ばしょ かんきょう じたく かよ がっこう
場所や環境によってことなります。自宅や通っている学校
ばしょ かんきょう し たいせつ
のある場所や環境を知っておくことが大切です。

土砂災害 Go! P26



《災害時の危険度は、こんな状況によって変わる》

- 震度5の地震が起きたとき、自分と家族は避難にどれくらいの時間がかかる？
- 同じ地震でも、若者・高齢者・子どもでは避難にかかる時間がちがう
- 洪水が起きたとき、自分の家はどれくらい浸水しやすい？
- 同じ洪水でも、家のつくりや建っている場所によって浸水や倒壊のリスクがことなる

さいがい そな や れい
2 災害に備える わが家のマイタイムライン例 いざというときにあわてず行動するために

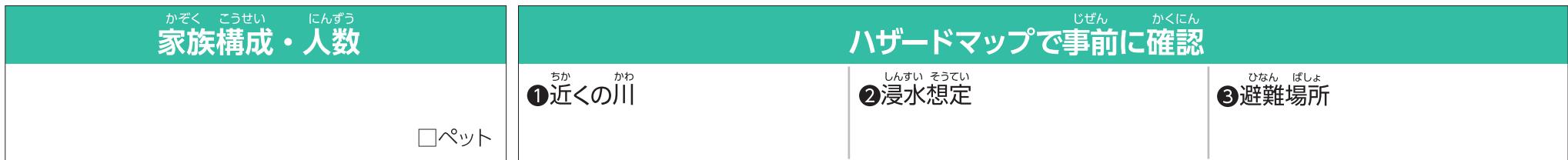

せつめい たいふう おおあめ じょうほう かぞく ひなん こうどう き
7~26 ページで説明している台風や大雨についての情報をもとに、家族の避難行動を決めておこう

家族構成・人数		ハザードマップで事前に確認				
父、母、姉、妹、祖父、自分、計5人		①近くの川 山田川、北川 ②浸水想定 北川をば 床上浸水 ③避難場所 北山地区公民館				
時間の流れ		まえ 前2、3日～前日				
警戒レベル	1	2	3	4	5	
避難情報	身の安全を確保		高齢者等避難	避難指示	緊急安全確保	
気象情報	早期注意情報 (警報級の可能性)	大雨注意報 洪水注意報	大雨警報 洪水警報	土砂災害警戒情報	大雨特別警報	
住民がとるべき行動	災害への心構えを高める	自らの避難行動を確認	危険な場所から高齢者等は避難	危険な場所から全員避難!	命の危険	直ちに安全確保!
行動	祖父(90歳)の避難用にレンタレしている車椅子をすぐ使えるよう準備する	近所に住む伯母を迎えに行く 家族全員の避難用の運動靴を出ておく	カッパを着ておく ペットをケージに入れる 祖父とともに避難開始	避難所に到着しておく 避難所での作業を手伝う		

2 災害に備える わが家のマイタイムライン

いざというときにあわてず行動するために
糸島市

7~26 ページで説明している台風や大雨についての情報をもとに、家族の避難行動を決めておこう



時間の流れ	▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶ 前2、3日～前日	▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶ 前日～当日	▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶ 前日～当日	▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶ 前日～当日	▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶ 前日～当日
警戒レベル	①	②	③	④	⑤
避難情報	み 身の安全を確保		高齢者等避難	避難指示	緊急安全確保
気象情報	そうき 早期注意情報 (警報級の可能性)	おおあめ 大雨注意報 洪水注意報	おおあめ 大雨警報 洪水警報	どしゃ 土砂災害警戒情報	おおあめ 大雨特別警報
住民が とるべき行動	さいがい 災害への 心構えを高める	みづか 自らの 避難行動を確認	きけん 危険な場所から 高齢者等は避難	きけん 危険な場所から 全員避難！	いのち 命の危険 直ちに安全確保！
行動					<p>さいがい 災害 はっせい 発生</p>

2 災害に備える

警戒レベルとは？

水害や土砂災害に備えて市町村が発表する避難情報や気象庁が発表する災害気象情報をもとに、
住民がとるべき行動をわかりやすいよう5段階に分けて表したものです。

たかい
高

危険度

明るいうちの避難を中心に行なう
あくまで自己的で、高齢者や障害のある人など
以外も必要と感じたら
高齢者や障害のある人などを
しっかりと避難を心がけよう

警戒レベル	いま 今の状況	行動を促す情報	住民がとるべき行動	災害気象情報 (氾濫情報、警報など)
5	災害発生または危険が迫っている	市町村が発令する 緊急安全確保	命の危険 ただちに安全確保！	大雨特別警報 氾濫発生情報
〈 警戒レベル4までに必ず避難! 〉				
4	災害のおそれが高い	市町村が発令する 避難指示	危険な場所から 全員避難	土砂災害警戒情報 氾濫危険情報 高潮警報 特別警報
3	災害のおそれがある	市町村が発令する 高齢者等避難	危険な場所から 高齢者・障害のある人・ 避難に時間がかかる人・ 乳幼児・それらの 支援者は避難	大雨警報 洪水警報 氾濫警戒情報 高潮注意報
2	気象状況が悪化	気象庁が発表する 大雨注意報 洪水注意報 高潮注意報	ハザードマップなどを もとに避難行動を 確認する	氾濫注意情報
1	今後気象状況が 悪化するおそれがある	気象庁が発表する 早期注意情報	災害への心構えを 高める	警報級の情報が 発表される可能性も！

2 災害に備える ハザードマップとは？

自然災害に対して、被害がぜったいに起きないよう完璧な予防をするのは不可能です。だからこそ、被害を最小限におさえるための「減災対策」として、予測できる情報を充実させることが重要です。そのために、自然災害によってどのような被害が考えられるかをわかりやすく記載した地図をハザードマップといいます。

糸島市 Webマップ
ITO SHIMA CITY WEB MAP

糸島市の様々な地図情報を住民の皆様にわかりやすく公開・提供します

掲載マップ一覧

- ハザードマップ
- 都市計画情報
- 道路情報
- 施設
- 子育て・教育
- ごみ
- 防犯

お知らせ

- 2023-3-3 選挙ポスター
- 2022-8-30 子育て施設マップ、介護サービス事業所マップ、ごみマップを公開しました。
- 2022-8-30 照明灯閲覧マップの照明灯データを更新しました。
- 2022-8-4

スマートフォンサイト
QRコード

スマートフォンサイト
QRコード

防災関連リンク

小学校区ごとの各種災害リスクを確認する

小学校区	洪水	土砂	高潮	津波	ため池	地震
波多江校区	○	—	○	—	○	○
東風校区	○	○	○	—	○	○
前原校区	○	○	○	○	○	○
前原南校区	○	○	—	—	○	○
南風校区	○	○	○	○	○	○
加布里校区	○	○	○	○	○	○
長糸校区	—	○	—	—	○	○
雷山校区	○	○	—	—	○	○
怡土校区	○	○	—	—	○	○
一貴山校区	—	○	○	—	○	○

防災情報について

- 糸島市防災ポータル
- 糸島市防災ハンドブック
- 福岡県防災ハンドブック
- 防災気象情報と警戒レベル
- 防災ポータル（国土交通省）
- 防災教育～国土の防災ライブラリ～（国土交通省）
- 気象庁～災害から身を守ろう～

小学校の校区ごとのハザードマップをみることができます

糸島市のハザードマップは6種類

糸島市では、災害を6種類に分けて危険度を表したハザードマップをつくりています。自宅や通学している学校の周りの危険度をチェックしておきましょう。

災害の種類ごとの《ハザードマップ》



2 災害に備える ハザードマップの種類

一般的にハザードマップには災害の種類を次の5つに分けたものがあります。

河川氾濫・浸水・水害



水防法にもとづいた浸水想定区域をのせたもの。「洪水ハザードマップ」と呼ばれます。

浸水想定区域 Go! P17

がけ崩れ・土石流・地すべりなど



土砂災害防止法にもとづいた土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域をのせたもの。「土砂災害危険度マップ」と呼ばれます。

土砂災害警戒区域・土砂災害危険箇所 Go! P26

地震



液状化などの地盤被害、火災をふくめた建物被害などを示したもので

す。

火山



溶岩流・火碎流・高熱の爆風が到達する範囲、火山灰がふる範囲、泥流の到達範囲などを示したもの。「火山灾害予測図」と呼ばれます。

津波・高潮

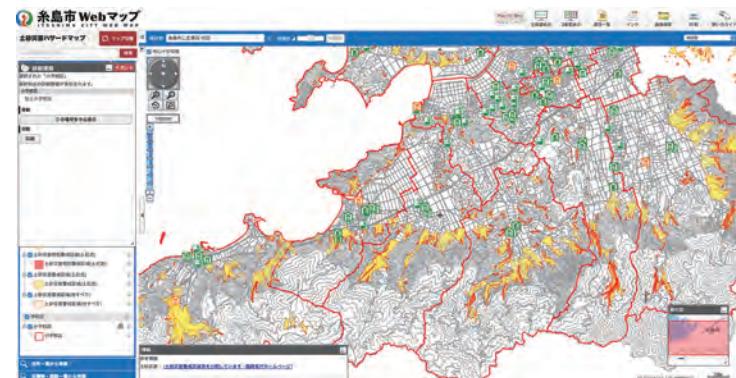


津波・高潮による浸水域などをのせたもの。「津波ハザードマップ」と呼ばれます。

津波 Go! P33

高潮 Go! P27

《ハザードマップ例》



《ハザードマップ例》



ハザードマップを使うときはこんなことにも注意しよう

- あくまで予想できる被害を示したものであり、ぜったいに被害が起きるかどうかがわかるものではない
- 住民の見方を反映しているわけではないので、記載されている避難経路や避難場所が実際には使いづらい場合がある。住民がよく知っている災害情報や危険箇所なども書かれていないことがある
- ほかにも記載が難しいため書かれていない内容がある

2 災害に備える

きょうこう じょうほう 気象庁からの情報をキャッチしよう①



注意報と警報はどうちがう？

- 注意報……災害が起こるおそれがあるときに出る
- 警報……重大な災害が起こるおそれがあるときに出る
- 特別警報…警報をはるかに超える、数十年に一度しかない
ような非常に危険な状況のときに出る

特別警報とは

大雨、暴風、高潮、波浪、大雪、暴風雪などが予想され、
重大な災害が起こるおそれが高まっているときに発表さ
れ、最大級の警戒が呼びかけられます。



土砂災害警戒情報とは

大雨警報（土砂災害）が出たあと、命に危険をおよぼす
土砂災害がいつ発生してもおかしくない市町村に対して
発表されます。

台風に関する気象情報（全般台風情報）とは

台風が発生したとき、または台風が日本に影響をおよぼすおそれがあるときに、気象庁は「台風に関する気象情報（全般台風情報）」を発表します。



緊急地震速報とは

最大震度が5弱以上または最大長周期地震動階級が3
以上と予想されたときに発表されるとともに、対象地域で
テレビ・ラジオ・スマホなどから緊急地震速報が流れます。

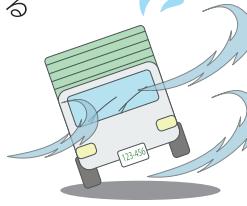


最大長周期地震動階級とは…ひと振れで1~2秒から7~8秒ほどの揺
れが発生する高層ビル内での被害の程度をもとに、揺れの大きさを4段階
に区分して表わしたもの。3は「立っていることが困難になる」「不安定な
家具は倒れることがある」レベル。

さいがい そな きしうちょう じょうほう
2 災害に備える 気象庁からの情報をキャッチしよう②

かぜ つよ ふ かた
風の強さと吹き方

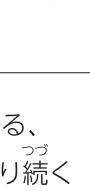
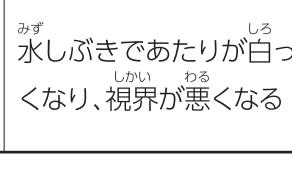
かぜ つよ ほこう じどうしゃ うんてん きけんど
風が強まるとき歩行も自動車の運転も危険度がアップ！

よほう ようご 予報用語	へいきん ふうそく 平均風速 びょうそく (秒速)	おおよその じそく 時速	はや 速さの めやす	ひと 人への影響	おくがい じゅもく 屋外・樹木のようす	そうこうちゅう くるま 走行中の車	けんぞうぶつ 建造物
やや強い風	10m以上 みまん 15m未満	~50km	いっぽん どうろ 一般道路 の じどうしゃ 自動車	かぜ む ある 風に向かって歩きにく い。傘がさせない	じゅもくぜんたい ゆ 樹木全体が揺れはじめる。 でんせん ゆ 電線が揺れはじめる	どうろ ふ なが ※ すいへい 道路の吹き流しが水平に こうそくうんてんちゅう よこかぜ なる。高速運転中は横風 なが かん に流される感じがする	あま 雨どいが ゆ 揺れはじめる
	15m以上 みまん 20m未満	~70km		かぜ む ある 風に向かって歩けない。 てんとう ひと たか 転倒する人もいる。高い ところ さぎょう 所の作業はきわめて きけん 危険	でんせん ゆ 電線が揺れはじめる。看板 かんばん いた やトタン板がはずれはじめ る	こうそくうんてんちゅう よこかぜ なが 高速運転中に横風に流さ かん つよ れる感じが強くなる	やね かわら 屋根の瓦などがはがれることがあ あまと ゆ る。雨戸やシャッターが揺れる
非常に強い風	20以上 みまん 25m未満	~90km	こうそく どうろ 高速道路 の じどうしゃ 自動車	なに 何かにつからないと 立っていられない。 と 飛んでくる物でケガをする おそれがある	ほそ き みき お ね 細い木の幹が折れる。根の はっていない木が倒れはじ める。看板が落ちたり飛ん だりする。道路標識がかた むく	つうじょう そくど うんてん 通常の速度で運転するの むずか が難しくなる	やね かわら 屋根の瓦などが飛ぶことがある。 こてい ごや うご 固定されていないプレハブ小屋が動 てんとう いたり転倒したりする。ビニールハウ こうはんい スが広範囲にやぶれる
	25m以上 みまん 30m未満	~110km		おくがい こうどう 屋外での行動はきわめて きけん 危険		そうこうちゅう おうてん 走行中のトラックが横転 する	こてい ふじゅうぶん きんぞく やね 固定の不十分な金属屋根がめくれ たてもの まもる。建物を守るおおいなどが不十分 かせつ あしばくず お な仮設足場が崩れ落ちる
猛烈な風	30m以上 みまん 35m未満	~125km	とっきゅううでんしゃ 特急電車	おお じゅもく 多くの樹木がたおれる。 でんちゅう がいとう 電柱や街灯でたおれるもの がある。ブロック壁で倒壊する ものがある			たてもの そとがわ こうはんい と ち 建物の外側が広範囲に飛び散り、そ うちがわ ぶぶん ろしゅつ の内側の部分が露出することがある
	35m以上 みまん 40m未満	~140km					いえ どうかい 家が倒壊することがある。 てごつ けんぞうぶつ へんけい 鉄骨建造物が変形することがある
	40m以上	140km~					

さいがい そな きしうちゅうじょう じょうほう
2 災害に備える 気象庁からの情報をキャッチしよう③

あめ つよ ふ かた
雨の強さと降り方

つよ あめ なか ひと じどうしゃ いどう むづか
「強い雨」の中では人や自動車の移動が難しくなる!

じかん うりょう 1時間雨量	よほう ようご 予報用語	ひと う 人が受けるイメージ	ひと えいきょう 人への影響	おくない 屋内のようす もくぞう じゅうたく そうてい (木造住宅を想定)	おくがい 屋外のようす	くるま の 車に乗っていると
いじょう 10mm以上～ みまん 20mm未満	やや つよ あめ 強い雨	ザーザーと降る 	じめん は かえ 地面からの跳ね返りで、足元がぬれる	あめ おと はな こえ き 雨の音で話し声がよく聞き取れない	じめん いったい みず 地面一帯に水たまりができる	
いじょう 20mm以上～ みまん 30mm未満	つよ あめ 強い雨	どしゃ降り 			 どうろ かわ 道路が川のようになる	 はや ワイパーを速くしても み見づらい
いじょう 30mm以上～ みまん 50mm未満	はげ あめ 激しい雨	バケツをひっくり返したように降る 	かさ 傘をさしていてもぬれる			
いじょう 50mm以上～ みまん 80mm未満	ひじょう 非常に はげ あめ 激しい雨	たき ふ 滝のように降る、ふとつづ ゴーゴーと降り続く 	かさ 傘はまったく役に立たない	ね ひと はんすう 寝ている人の半数くらいがあめ き 雨に気づく		
いじょう 80mm以上～	もうれつ あめ 猛烈な雨	いきぐる 息苦しくなるような あっぽくかん 圧迫感がある。恐怖 かん を感じる			みず 水しぶきであたりが白っぽくなり、視界が悪くなる 	くるま うんてん さけん 車の運転は危険

2 災害に備える エリア別の災害



どんな場所でどんな災害が起こりやすいのか、自宅や学校のまわりの地形などと照らし合わせて、災害の種類ごとに危険度をチェックしておくと、マイタイムラインづくりにも役立ちます。



2 災害に備える マイタイムライン作成のためのチェックシート

11・12ページをもとにチェックシートを書き込んでみよう

こうずい そな さくせい 洪水ハザードマップや洪水想定区域図などでチェック

- あなたの住んでいる場所の浸水深は？

_____ m

●あなたの住んでいる場所の
浸水継続時間は？

_____ 時間

●家屋倒壊等氾濫想定区域
(氾濫流・河川浸食)ですか？ はい いいえ



かてい じょうきょう 家庭の状況チェック

- 車 無 有 台
- ペット 無 有
- 持病薬 無 有
- 避難に支援が必要な人 無 有
(高齢者、障害者、乳幼児、妊婦など)

ひなんさき 避難先のチェック

- あなたが避難する場所

●洪水ハザードマップに記載されている場所
移動手段:

●親戚・知人の家
移動手段:

●その他近くの浸水しない場所
(浸水深以上の階のある堅牢な建物など)
移動手段:

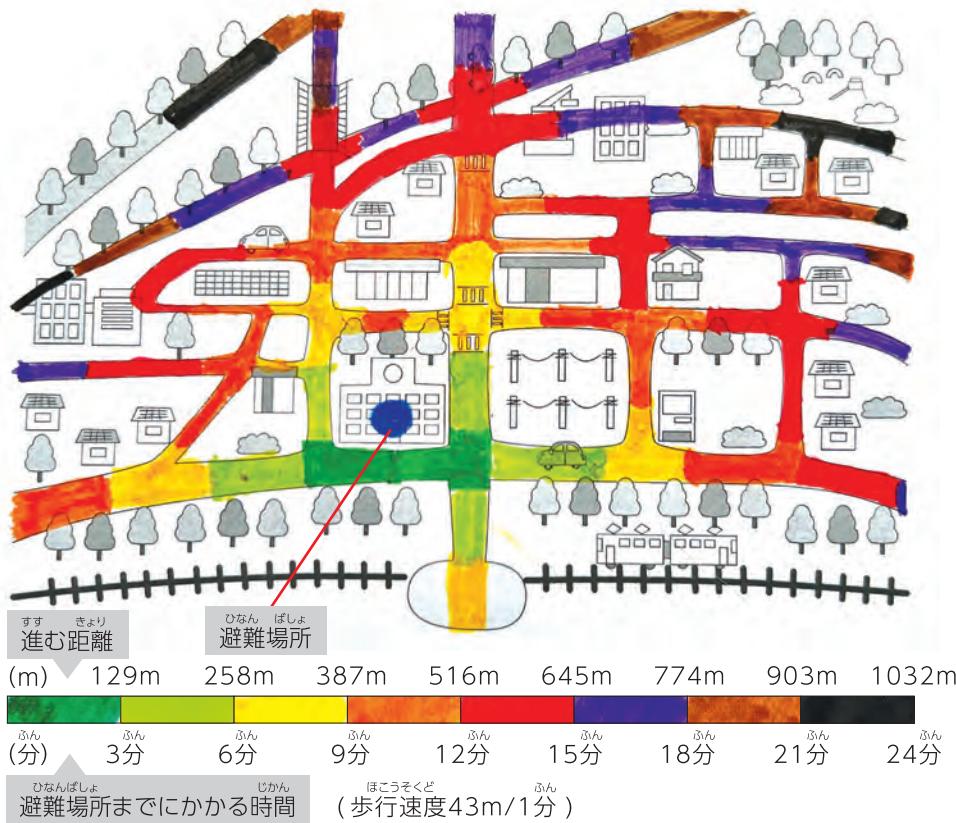
●複数の避難先を
かんがえておこう

いどう じかん やく ふん 分

いどう じかん やく ふん 分

いどう じかん やく ふん 分

2 災害に備える 避難地図



避難のための地図をつくろう

津波や土砂災害がおきたときに「いちばん近い避難所までどのくらいの時間で逃げられるか」を示した地図をつくりましょう。自分が住む地域で災害が起こったときにどの場所が危険なのかがわかり、自分で避難できるようになるための大切な情報になります。

いろ 色をつけてわかりやすくしよう！

用意する物

・地域の白地図・ヒモ・色鉛筆

Step1

どんな災害から
避難するかを選ぶ



Step2

地図をつくる

- ①危険範囲を囲む
- ②避難所を決める
- ③避難所までの道を決め、ヒモを使って距離をはかり、かかる時間ごとに色を変えてぬる

Step3

地図を見直す

- ・避難するまでにかかる時間を計算しておく
- ・避難する道の途中に災害時に危険になる場所がないかをチェックする
- ・実際に避難経路を見に行き、道の状態を確認する
- ・家族や友人といっしょに地図を見直し、まわりの人との情報を集める

まわりの人といっしょに考えよう！

- 地域の方々、学校の先生、家族などに「どんな被害が起こりそうか」「どんな災害対策をしているか」をたずねてみる
- みんなで話し合いながら、逃げる場所を決める。
- 地図上の道に色をぬることで、避難経路と避難にかかる時間をわかりやすく示す

2 災害に備える

防災で必要なもの一覧

基本の防災グッズ一覧

外出先での「持ち歩き用」、避難所に向かうための非常用持出袋などの「避難用」、自宅での避難生活に必要な「在宅避難用」など、それぞれに対応した防災グッズを用意しましょう。

持ち歩き用防災グッズ



避難時の備え 非常用持出袋を用意するときのリスト

1人1個以上、個人のリュックに入れるもの



身を守るもの



*みんなで使うものは、家族の代表が準備しましょう。

2 災害に備える 備蓄品・ローリングストック

在宅避難用

最低限の備蓄品リスト
(1人あたり3日～7日分以上)

家庭備蓄の目安 (大人1人7日分)

必需品

- 水2L×10本
- カセットコンロ・ボンベ ×夏6本・冬9本
- LED ライト・ランタン
- 電池式モバイルバッテリー ×1個以上
- 乾電池 単3×30本

食品

- 乾麺 600g×2袋
- パックご飯×10袋
- 缶詰
- レトルト食品
- レトルトスープや野菜ジュースなど
- 果物缶やお菓子

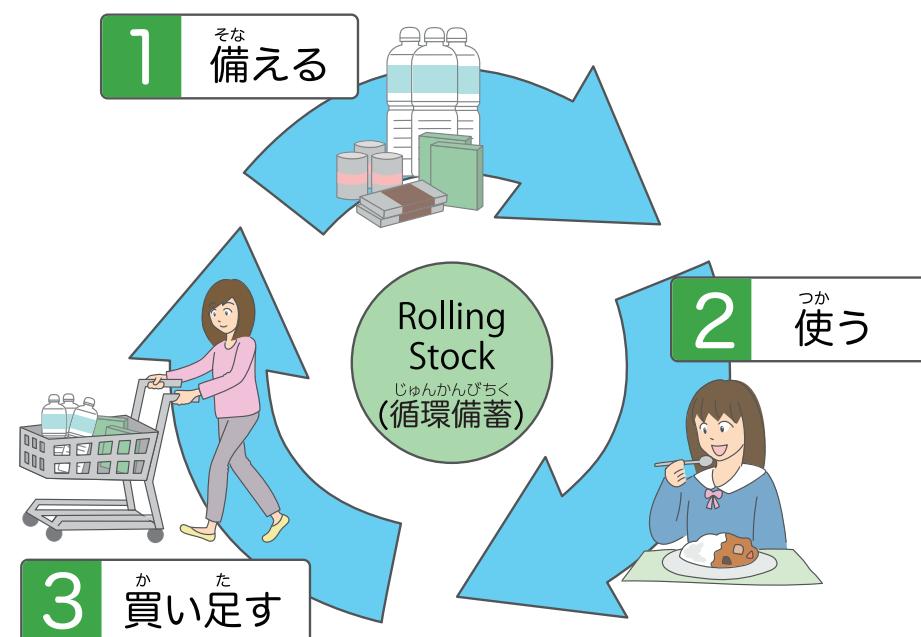
そのほか

- 簡易トイレ
- 手回し充電ラジオ
- カセット式ストーブ・カイロ
- 電池式扇風機

キッチンや玄関などに分散して配置しよう

ローリングストックがオススメ！

家庭で非常食を備えることはとても大事です。そこでオススメなのが「ローリングストック法」。これは日常の食事として非常食を買って食べ、なくなったら買い足すを繰り返すことで、常に新しい非常食が家庭にある状態にするものです。これなら「気づいたら消費期限が過ぎていた」ということもなくなり、また、非常食を食べ慣れておくことで災害時にあわてずにすみます。



2 災害に備える ケガの応急処置

災害時は、いつものようにすぐ医師に診てもらったり救急車を呼んだりできないこともあります。自分や周りの人がケガをしたときに備えて、応急処置の方法を身につけておきましょう。



切り傷などで血が出たら

- 傷口が土や砂で汚れていたら、なるべくきれいな水でよく洗い流す
- たくさん血がでていたら、清潔なガーゼや布で強めにおさえて血を止める
- 傷の部分を清潔にしてから包帯を巻く
- 血に直接さわらないようビニールやゴムの手袋をつける。なければ代わりにレジ袋などを使う

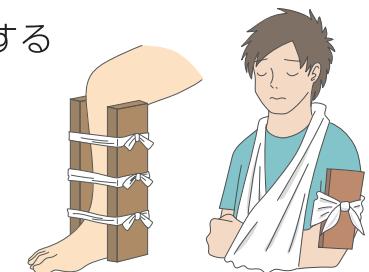
やけどをしたら

- 流れる水でやけどした部分を冷やす
- 水ぶくれをやぶらないよう気をつける
- 消毒ガーゼか清潔な布をあて、包帯をまく



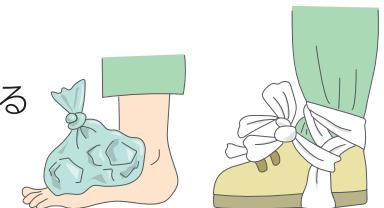
骨折したら

- 骨折しているかもしれない部分はあまり動かさない
- 氷または冷しきップなどで腫れや痛みをやわらげる
- できれば「添え木」をあてて骨折部分の上下を固定する
(添え木はダンボール、傘、棒、板などで代用できます)
- 腕の場合は三角巾などで固定する



ねんざしたら

- 氷または冷しきップなどで腫れや痛みをやわらげる
- 足をねんざした場合、靴をはいたまま三角巾や布で固定する
- 腕の場合は三角巾などで固定する



<心肺蘇生法やAEDの使い方を覚えよう>

家族や友達のため、講習を受けるなどして心肺蘇生法やAEDの使い方を覚えておきましょう!

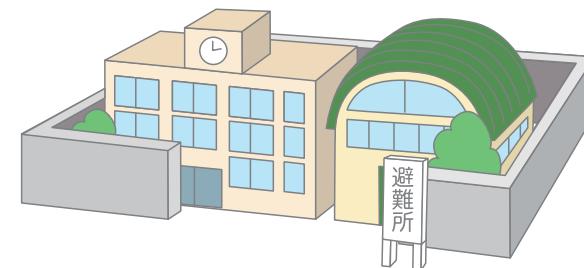
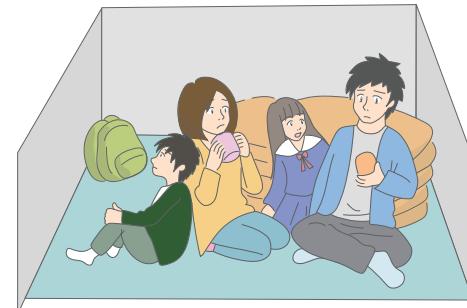


2 災害に備える 避難所での過ごし方

みんなが安全・安心な避難所生活を おくれるように!

共同生活のポイント

- 避難所運営組織を中心に話し合い、ルールや役割分担を決める
- 一部の人に負担が集中しないよう、できることをみんなで分担、協力する
- 起床、消灯など、決められた生活時間を守る
- 食料などの物資は、できるかぎり公平にいきわたるようにする
- 居住スペースは土足禁止にする
- トイレを定期的にそうじする
- 高齢者・障害者・乳幼児・妊産婦・外国人などに配慮する



健康管理のポイント

- ふだんから手洗い、うがいをする。食事前、トイレの後はしっかりと!
- 水が使えないときは手指消毒剤やウェットティッシュで手を清潔にする
- セキやくしゃみがでるときはマスクをつける
- 食べ物には素手でさわらない
- 生ものは避け、食材はできるだけ加熱調理する
- 配給されたおにぎりなどの食べ物は早めに食べる
- 調理器具や食器は使うたびに清潔にする
- アレルギーなどで食べられないものがある人は周囲に伝える
- こころの健康も大事。苦しいときは医療や福祉の専門家に相談する

3 災害を学ぶ 風水害①

風水害とは

自然災害のうち、地球の内側で発生するものを「地震・火山災害」、地球の外側で発生するものを「気象災害」といいます。

風水害の種類

大雨(豪雨)、台風、竜巻、内水氾濫(浸水害)、外水氾濫
(洪水害)、地すべり、がけ崩れ、土石流

大雨 Go!P24

台風 Go!P25

内水氾濫・外水氾濫 Go!P16

竜巻 Go!P27・P28



風水害が起こりやすいのは…

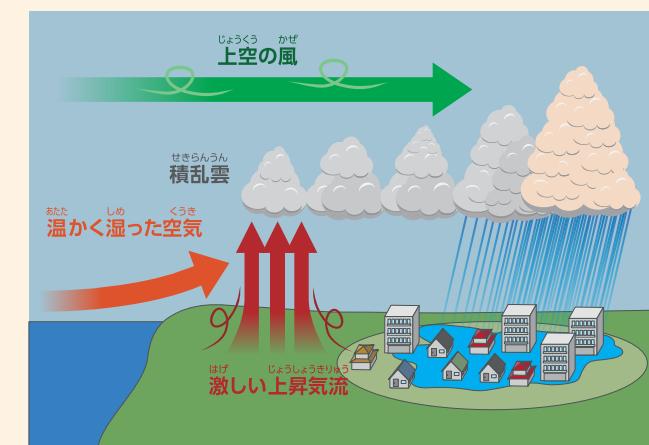
- 梅雨の終わりごろなど、前線が停滞しているとき
- 台風が近づいているとき、上陸したとき
- ひざしの強い夏ごろなど、大気の状態が不安定でつぎつぎに雷雲が発生しているとき

集中豪雨が起こるとどうなる？

- 川の水が増えて氾濫することがある
- 床上浸水、床下浸水が発生することがある
- 道路が冠水することがある
- 排水溝や下水管から水があふれ、地下のスペースなどに水が流れこむことがある

耳にする事が多い線状降水帯とは

長さ50～300km程度、幅20～50km程度の線状にのびる、強い雨をともなう雨域のことをいいます。つぎつぎに発達した雨雲が大きなかたまりになると発生し、数多くの甚大な災害が起きています。



集中豪雨・局地的大雨に注意しよう

しゅうちゅう ごうう きょくちてき おあめ ちゅうい
集中豪雨・局地的大雨に注意しよう

みじか じかん せま ちいき しゅうちゅう ふ あめ しゅうちゅう ごうう
短い時間で狭い地域に集中して降る雨を「集中豪雨」と

つゆ お お とっぱつてき
梅雨の終わりごろによく起こりますが、突発的な

はっせい よそく むずか とくちょう しゅうちゅう ごうう
ものなので発生の予測が難しいことが特徴です。集中豪雨

お かせん はんらん くず ひがい かのうせい
が起こると、河川の氾濫、がけ崩れといった被害の可能性が

たか
高まります。



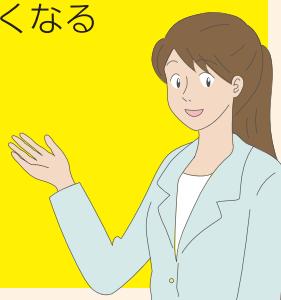
はつたつ せきらんうん きょくちてき おあめ はっせい
発達した積乱雲によって「局地的大雨」が発生することがあ

ります。次のようなことが起きたら、気象災害の危険性

たか
が高まっているかもしれません。すぐに身の安全を確保しましょう。

これらの天候に注意しよう！

- 短時間のうちに雲がもくもくと大きくなる
- まっ黒な雲が近づき、あたりが急に暗くなる
- 雷の音が聞こえる、雷の光が見える
- 急に冷たい風がふく
- 大粒の雨、ひょうがふる



大雨が予測されたら…

- 土砂災害の危険があるときは、できるだけ早く避難する
- 夜間や早朝に大雨が予測されているときは、暗くなる前に避難する
- 風雨が強くなってから屋根などを補強するのは危険。早めに対応しておく
- 大きな河川では雨がやんでも洪水になることがあるので注意する
- 大きな河川よりも中小河川のほうが早く水位が上昇することがあるので注意する

3 災害を学ぶ 風水害③

自分でできる台風への備え

テレビやラジオの気象情報に注意し、台風や大雨の危険が近づいているという情報を聞いたら、災害への備えをもう一度確認しましょう。

家の外の備え

- 窓や雨戸はしっかりとカギをかけ、必要に応じて補強する
- 側溝や排水口はそうじをして水はけをよくしておく
- 風で飛ばされそうな物は固定するか家の中へしまう

家の中の備え

- 防災グッズを確認しておく
- 飛散防止フィルムを窓ガラスに貼る、外から物が飛んでくる場合に備えてカーテンやブラインドをおろしておく
- 断水に備えて飲料水を確保する。浴槽に水をはるなどして生活用水を確保する
- 学校や公民館など、指定された避難場所への道順を確認しておく

これらの対策を、大雨が降る前、風が強くなる前に行う

避難のときに注意すること

- 自分がいる建物が倒壊する危険がなく、なおかつ周囲が浸水しているときは、避難所に行くよりも自宅の2階やビルに避難するほうが安全なこともある
- 避難するときは持ち物を最小限にして、両手が使えるようにする
- 警察・消防・地元の防災責任者などの指示にしたがって行動する
- 動きやすい服や靴を身につける
- できるだけ2人以上で行動する
- 浸水している場所では下水道のマンホールや側溝に落ちるおそれがあるため、できるだけ浸水していない場所を歩く
- 車での避難はさける
- 川、橋、用水路に近づかない
- できれば近所の高齢者、子ども、病気の人などが早く避難できるよう声かけして協力する



3 災害を学ぶ 台風・豪雨時の土砂災害

土砂災害とは

集中豪雨や長雨によって地盤がゆるみ、突然、局所的に起こる「がけ崩れ」「土石流」のこと。発生を予測するのが難しく、巻きこまれないためにには予兆をキャッチして早めに避難することが大切です。

がけ崩れが起こる予兆

- 崖からの水がにごる
- 地下水やわき水が止まる
- 斜面のひび割れ、変形がある
- 小石が落ちてくる
- がけから音がする
- 異様においがする



土石流が起こる予兆

- 川の水が異常に濁る
- 溪流で小石が流れる音がする
- 溪流の水面が急に低くなる

- 流木が流れてくる
- 地鳴りがする
- 土臭いにおいがする

がけ崩れ・土石流が起こるのはなぜ?

雨によってゆるんだ地盤があつという間に図1のように崩れ落ちるのが「がけ崩れ」。増水した川の水が図2のように山腹や川の土砂を巻き込みながらいっきに下流へ押し流されるのが「土石流」。いずれも突然発生するので早めに避難しておくことが重要です。



土砂災害から身を守るには

- 自宅が土砂災害のおそれがある「土砂災害警戒区域」や「土砂災害危険箇所」になっていないかを都道府県や国土交通省のホームページで確認しておこう

※土砂災害警戒区域・土砂災害危険箇所でなくとも、土砂災害が発生することがあるので、近くに「がけ地」や「小さな沢」がある場合は要注意!

- 雨が降り出したら災害のおそれが高まっていることを示す「土砂災害警戒情報」や雨量の情報に注意しよう

土砂災害警戒情報 Go!P13

3 災害を学ぶ 高潮、竜巻、落雷①



高潮とは

高潮とは、海面が高くなる現象です。台風や猛烈に発達した低気圧が原因となって起こります。

高潮が起こる原因

- 気圧の低下…台風や低気圧の中心付近は周りよりも気圧が低いため、海面が吸い上げられて高くなる
- 強い風…台風の強い風が海岸にむかってふいたり大きな波がたえまなく押し寄せると、海水がふき寄せられ、海岸近くの海面が高くなる

高潮が起こりやすい場所

- 風上側にひらけたところ
- 湾の奥まったところ



高潮が起こりそうなときは

- 気象台が発表する高潮警報などの情報に注意する
- 高潮が起ると急に浸水するため、早めに避難する
- 近くの高台などじゅうぶんな高さのある場所に避難する
- 海岸や河川は危険なのでぜったいに近づかない

竜巻とは

竜巻とは、発達した積乱雲の強い上昇気流によっておこる空気の激しいうずまきのことです。風速70m/秒をこえる風がふくことがあり、短時間で狭い範囲に集中して被害をもたらします。高速で移動することもあり、過去には時速90km以上の速さで移動した竜巻が確認されています。

3 災害を学ぶ 高潮、竜巻、落雷②

たつまき お よちょう 竜巻が起こる予兆

- そら きゅう くら
● 空が急に暗くなる
- おおつぶ あめ
● 大粒の雨、ひょうがふる
- ろうと
● 漏斗のかたちをした雲がみられる
- ひこうき
● ゴーという飛行機のような音が聞こえる
- もの と ち つつじょう ま あ
● 物が飛び散って筒状に舞い上がっている
- きあつ か みみ いじょう かん
● 気圧が変わり耳に異常を感じる

たつまき おくない 竜巻がせまってきたら 屋内では

- まど あまだ
● 窓、カーテン、雨戸やシャッターを閉める
- まど へや ばしょ いどう
● 窓のない部屋や場所に移動する
- たてもの ひく かい いどう
● 建物のいちばん低い階に移動する
- ひく しせい りょううで あたま くび まも
● 低い姿勢をとって、両腕で頭と首を守る
- の
● エレベーターには乗らない



たつまき おくがい 竜巻がせまってきたら 屋外では

- ちか がんじょう たてもの ひなん
● 近くの頑丈な建物に避難する
- がんじょう たてもの
● 頑丈な建物がなければ、くぼんだ場所や物かけに身をふせて両腕で頭と首を守る
- くるま なか ものおき しゃこ たてもの
● 車の中、物置、車庫、プレハブの建物には入らない

らくらい 落雷とは

たいふう かんれいぜんせん※ ていきあつ
台風、寒冷前線、低気圧などによって、発達した積乱雲が
はっせい お
発生して起こります。

らくらい お よちょう 落雷が起こる予兆

- くろ くも ちか くら
● まっ黒な雲が近づき、あたりが暗くなる
- つめ かぜ
● 冷たい風がふきはじめる
- おおつぶ あめ
● 大粒の雨、ひょうがふりはじめる

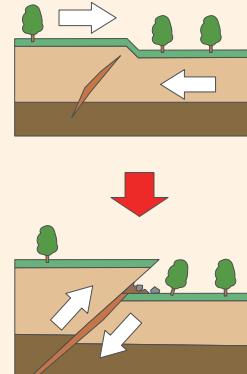
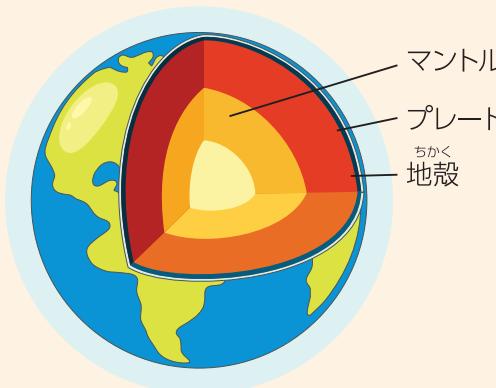
らくらい み まも 落雷から身を守るには

- かみなり おと き おくがい
● 雷の音が聞こえたとき、屋外にいたら安全な場所に避難する
- かみなり おと とお らいうん ちか
● 雷の音が遠くても雷雲はすぐに近づいてくるので注意する
- たてもの くるま なか ひなん
● 建物や車の中に避難する
- ちか ひなん ばしょ ばあい しせい ひく
● 近くに避難する場所がない場合には姿勢を低くする
- き でんちゅう いじょうはな
● 木や電柱からは4m以上離れる



プレートのずれが地震を起こす

地震は、地下で発生する岩盤のズレによって起こる現象です。地球の表面は10数枚に分かれた硬い岩盤「プレート」におおわれています。プレートはごくわずかですが常に動いています。プレートどうしがぶつかったり、片方のプレートがもう片方のプレートの下に沈み込んだりすることがあり、プレートに力がかかります。その力に耐えきれなくなったプレートにヒビが入ったりズレたりしたときに地震が起ります。

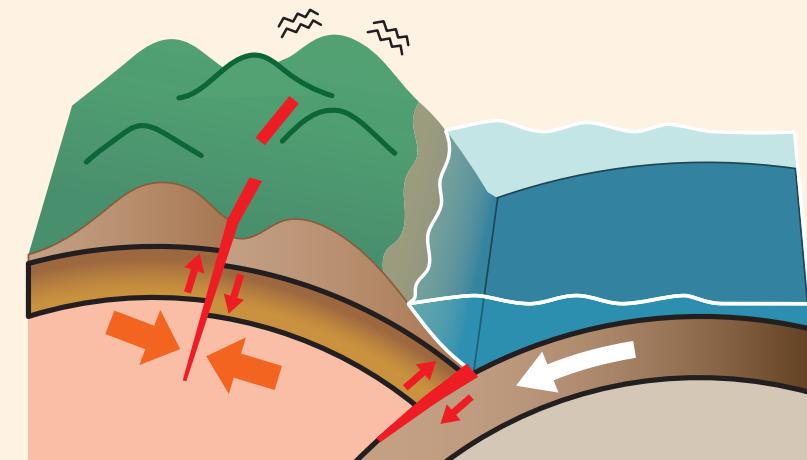


日本には、このプレートが4つもあるため、多くの地震が発生するのです。

前震・本震・余震とは？

もっとも規模の大きな地震に先立って起こる地震を「前震」、もっとも規模の大きな地震を「本震」、本震に引き続いて起こる地震を「余震」といいます。大きな地震が起こってから1週間ほどは大きな余震が多く、とくに最初の2~3日は規模の大きな地震の場合が多いため、注意が必要です。

地震はこうして起こる



活断層で起こる地震

プレートの動きによって岩盤に圧力がかかり、弱い部分に溜まったひずみが限界に達してずれる

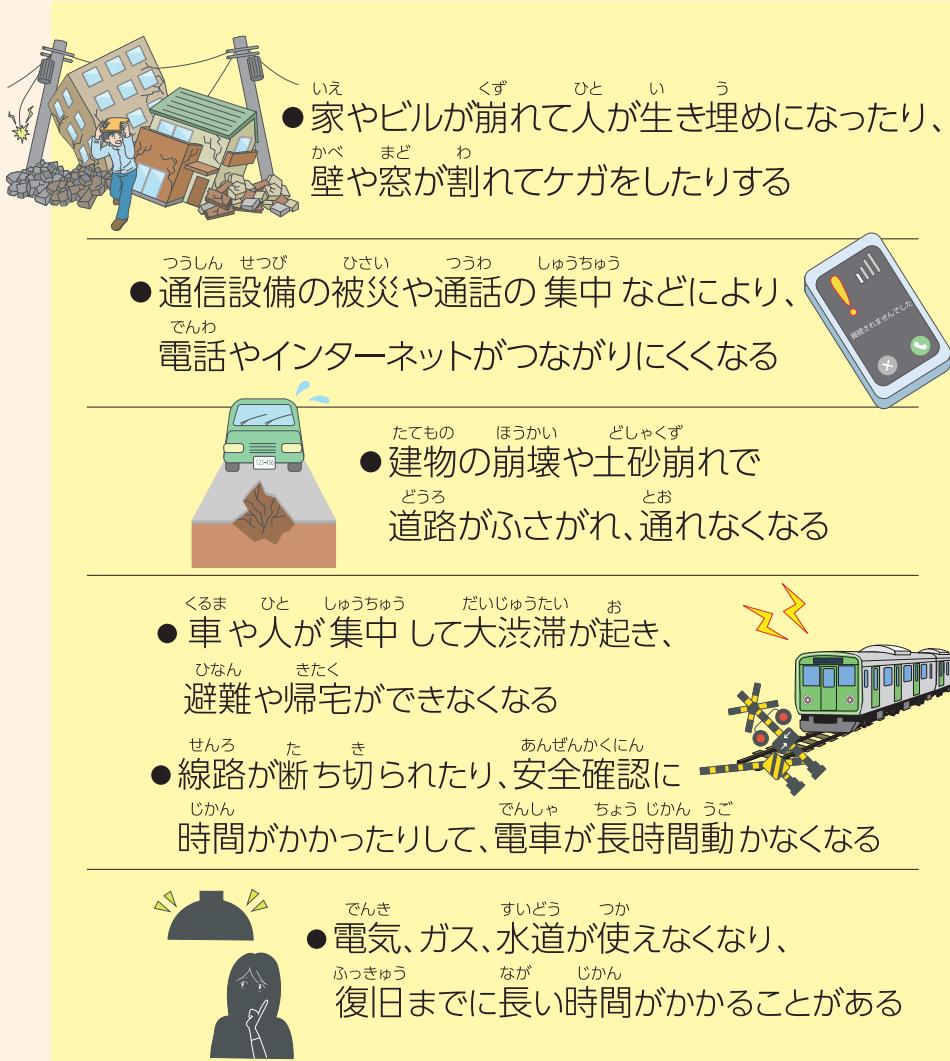
海溝で起こる地震

陸のプレートの先端が引きずりこまれ、溜まったひずみが元にもどろうとしてはね上がる

3 災害を学ぶ 地震②

じしん ひがい 地震でどんな被害がおきる？

じしん お たてもの ほうかい かさい つなみ どしゃくず えきじょう
地震が起きると、建物の崩壊、火災、津波、土砂崩れ、液状化現象などの被害が発生します。



しんど 震度とゆれかた

しんど 震度3	おくない しづ ● 屋内で静かにしているほとんどの人が揺れを感じる
しんど 震度4	ひと ゆ おどろ ● ほとんどの人が揺れに驚く ● 電灯などつりさげている物が大きく揺れる ● 不安定な置物が倒れることがある
しんど 震度5弱	たいはん ひと きょうふ ● 大半の人が恐怖をおぼえ、物につかりたいと感じる ● 棚の食器や本が落ちることがある ● 固定していない家具が動くことがある ● 不安定な家具は倒れることがある
しんど 震度5強	もの ある むづか ● 物につからないと歩くのが難しい ● 棚から多くの食器や本が落ちる ● 固定していない家具が倒れることがある ● 補強されていないブロック塀が崩れることがある
しんど 震度6弱	た むづか こてい かぐ たいはん うご ● 立っているのが難しくなる ● 固定していない家具の大半が動く ● 家具が倒れることやドアが開かなくなることもある ● 壁のタイルや窓ガラスが割れたり落ちてきたりすることがある ● 耐震性の低い木造の建物が傾いたり倒れたりすることがある ● 瓦が落ちてくることもある
しんど 震度6強	ゆか じめん うご と ● 床や地面をはわなければ動けない ● 固定していない家具のほとんどが動く ● 倒れるものが多くなる ● 耐震性の低い木造の建物が傾いたり倒れたりすることが多くなる ● 大きな地割れ、地すべり、山の崩壊が起こることがある
しんど 震度7	たいしんせい ひく もくぞう たてもの かたむ たお おお ● 耐震性の低い木造の建物が傾いたり倒れたりすることがさらに多くなる ● 耐震性の高い木造の建物もまれに傾くものがある ● 耐震性の低い鉄筋コンクリートの建物も倒れることが多くなる

おくがい ひなん たいさく 屋外での避難・対策

じゅうたくがい 住宅街

- 倒れる危険があるブロック塀や石塀、電柱、自動販売機などから離れる
- 屋根瓦やベランダにおかれた物が落下してこないか注意する

がい はんかがい オフィス街・繁華街

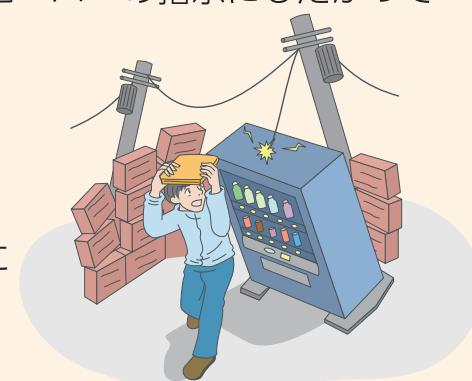
- ビルの窓ガラス、外壁、看板などが落下する場合も。カバンなどで頭を守り、できるだけ建物から離れる

かいがん 海岸

- 近くに高台がないときは3階建て以上の建物に避難する
- 海水浴中は監視員やライフセーバーの指示にしたがって避難し、絶対に戻らない

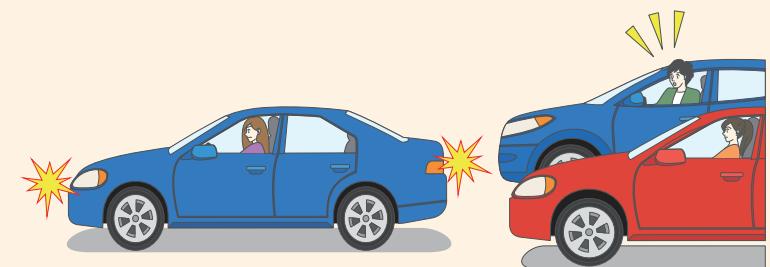
かわ 川べり

- 川の流れに対して直角方向にすばやく避難する



くるま うんてんちゅう 車の運転中

- 摆れを感じても急ブレーキは禁物。前後の車に注意しながら道路の左側に停車する。避難するときは車のキーをつけたままにして徒步で避難する
- 高速道路ではハザードランプを点灯させてから停車する



てつどう 鉄道・バス

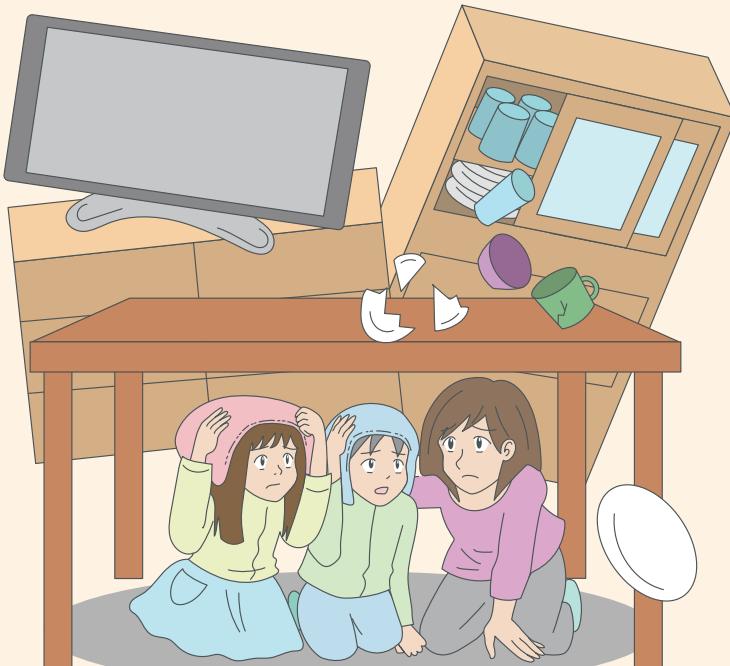
- 強い揆れを感じると電車、バスは緊急停車する
- 座っている場合は低い姿勢をとって頭部をカバンなどで守り、立っている場合は手すりやつり革をしっかり握って転ばないようにする
- 停車後は、乗務員の指示にしたがう



おくない ひなん たいさく
屋内での避難・対策

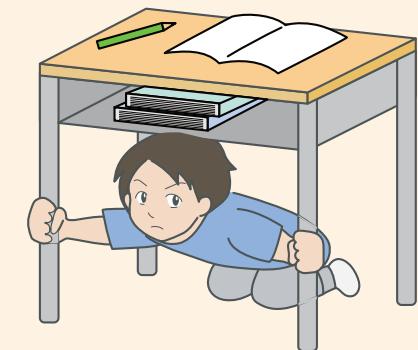
じゅうたく
住宅

- 机やテーブルの下にもぐり、机などの足をしっかりと握る
- 戸を開けて、出入り口を確保しておく
- あわてて戸外に飛び出さない
- 料理中の場合はまずコンロから離れ、揺れがおさまってから火を消す



がっこう
学校

- 教室では机の下にもぐる。あわてて外に飛び出さない
- 廊下、運動場、体育館などではまん中に集まっちゃがむ
- 自分の判断で家に帰らない



スーパー・デパート

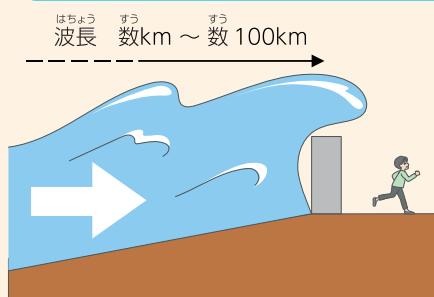
- カバンや買い物かごで頭を守り、ショーケースなどの倒れやすいものから離れる
- エレベーターホールや柱の近くなどに身を寄せる
- エレベーターでの避難はしない
- エレベーターに乗っているときは、すべての階のボタンを押して最初に停止した階で降りる。閉じこめられたら「非常呼び出しボタン」で連絡をとる

3 災害を学ぶ 津波

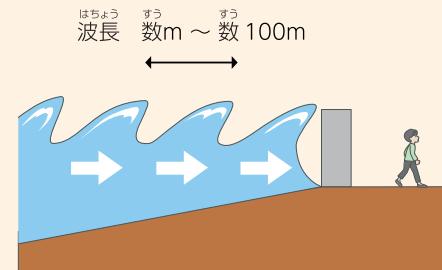
津波とは

津波は、海底から海面までの海水全体が動く大きな波です。波長は数キロから数百キロメートルと非常に長いため膨大なエネルギーを保ったまま海岸や陸地に押し寄せます。

海の風による「波浪」と比べると、エネルギーの大きさがよくわかる!



津波
海底から海面まで海水全体が押し寄せる。波長は数km～数100km



波浪
海面付近の海水が押し寄せる。波長は数m～数100m

津波がおこる仕組み

海底で大きな地震が起こると海底が盛り上がり、押し上げられた海水が大きな波となって広がっていきます。また、浅い海岸付近では津波が急激に高まり、陸地まで駆け上がってきます。

大津波警報・津波警報

聞き逃さないことが大事!

種類	発表基準	発表される津波の高さ	想定される被害・住民がとるべき行動
		発表される津波の高さ	
大津波警報	予想される津波の最大級の高さが高いところで3mを超える場合	10m超 10m<予想される津波の最大級の高さ	木造家屋が流失し、人は津波に巻き込まれる。沿岸部や川沿いにいる人はただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難しよう
		10m 5m<予想される津波の最大級の高さ≤10m	
		5m 3m<予想される津波の最大級の高さ≤5m	
津波警報	予想される津波の最大級の高さが高いところで1mを超えて3m以下の場合	3m 1m<予想される津波の最大級の高さ≤3m	標高の高いところにも浸水被害が発生。人は津波の流れに巻き込まれる
津波注意報	予想される津波の最大級の高さが高いところで0.2m以上、1m以下の場合で、津波による被害のある場合	1m 0.2m≤予想される津波の最大級の高さ≤1m	養殖イカダが流失して、小型船舶が転覆。浸水被害も発生する。海の中にいる人はただちに海からあがって海岸から離れよう



津波警報発表を知ることができる「緊急警報放送」

これは、気象庁から津波警報が発表されたときにテレビやラジオなどの受信機から警報音を発して危険を知らせるシステム。緊急警報放送に対応した受信機を受信できる状況にしておくと津波警報の発表をることができます。

3 災害を学ぶ ことばの説明・出典



ことばの説明

P2

- 前線: 冷たい空気と暖かい空気が地表で接触するライン。
- 梅雨前線: 春から真夏へ季節が移るときに出現して停滞する前線で、梅雨をもたらす。
- 浸水: 住宅などが水につかること。
- 基幹産業: 国や地方の基盤となる重要な産業。

P3

- 河川氾濫: 川の水位が上がって堤防をこえたり堤防を壊したりしてあふれること。

P4

- 震源: 地震が発生したとき、プレートにヒビが入ったりはねたりした部分。
- マグニチュード: 地震そのものの大きさ(規模)を表すものさし。
- 震度: 地震が起きたとき、それぞれの人が生活している場所での揺れの強さ。

P5

- 津波痕跡: 津波が襲来したことを示す水面の跡や残されている漂流物。

P12

- 水防法: 洪水・高潮による災害を減らして安全を保つための法律。
- 土砂災害警戒区域: 土砂災害が発生した場合に住民に危害が発生するおそれがある区域。
- 土砂災害特別警戒区域: 土砂災害が発生した場合に建物が壊れ、住民に著しい危害が発生するおそれがある区域。開発や建築物に一定の規制が設けられている。
- 液状化: 地盤が強い衝撃を受けたことで土の粒子がバラバラになり、地盤全体

がどろどろの液体のようになる現象。

- 溶岩流: 火山の火口から噴き出したマグマが地表を流れ下るもの。
- 火碎流: 高温の岩石や破片が火山の斜面を流れ下るもの。

P13

- 台風に関する気象情報(全般台風情報): 気象庁が、台風や24時間以内に台風になると予想される熱帯低気圧の実況と予報を発表するもの。

P14

- 道路の吹き流し: 車の走行に悪影響がある風を目で確認するための筒状の旗。トンネルや橋の上にある。

P16

- アンダーパス: 交差する鉄道や道路の下を通過するための道路で周囲より低くなっているところ。

P17

- 洪水想定区域: 河川の氾濫や高潮などによって浸水すると考えられる区域。
- 浸水深: 洪水や浸水で市街地や田畠などが水でおおわれたときの水の深さ。
- 浸水継続時間: 浸水の深さが50cmになってから50cmを下回るまでの時間。
- 家屋倒壊等氾濫想定区域: 洪水で家屋が流れたり壊れたりするおそれがある範囲。堤防の決壊や氾濫流によるもの(氾濫流)と、洪水で川岸が削り取られるもの(河岸浸食)に分けられている。

3 災害を学ぶ ことばの説明・出典



P19

- 在宅避難:大きな地震が発生したとき、自宅が壊れる危険のない場合に避難所ではなく自宅で避難生活を送ること。

P20

- 消費期限:購入した食品が安全に食べられる期間のこと。(袋や容器を開けないまましめるされている方法で保存する必要がある)

P21

- 心肺蘇生法:病気やけがで突然心臓が止まつたりそれに近い状態になったりしたとき、心臓マッサージや人工呼吸を行うこと。
- AED:動かなくなった心臓に電気ショックを与えて心臓の動きを取りもどさせ機械。さまざまな場所に設置されている。

P22

- 避難所運営組織:災害時に備えて避難所設置や運営の訓練を行った市町村の職員や住民による組織。

P23

- 自然災害:台風、地震、火山噴火などの自然の力によって起こる災害。
- 冠水:洪水などによって田畠や作物が水をかぶること。

P25

- 側溝:排水のために道路などにそって設けている溝。

P26

- 土砂災害警戒区域:土砂災害が発生した場合に住民に危害が発生するおそれがある区域。
- 土砂災害危険箇所:土石流、地すべり、がけ崩れの危険がある場所。
- 渓流:谷川の流れ

●地鳴り:地盤が揺れることで鳴る「ゴー」「ドーン」などの音。

P27

- 気圧:空気の押す力。(押す力が強い空気は気圧が高く、押す力が弱い空気は気圧が低い)
- 低気圧:周囲よりも気圧が低く、そこへ風が吹き込む。(吹き込んで行き場をなくした空気が上空で雲となって雨をふらせる)
- 高潮警報:台風などによる異常な海面の上昇で災害の発生が考えられるときに発表される。
- 積乱雲:強い上昇気流によって高さ10km以上まで発達した雲。
- 上昇気流:上向きの空気の流れ。

P28

- ひょう:積乱雲から降る氷のかたまり。
- 寒冷前線:冷たい空気が暖かい空気の下へもぐり込むことで上昇した暖かい空気が積乱雲をつくり、雨や雷雨が発生する。

P33

- 標高:土地の高さのこと。東京湾の平均海面の高さを0としてはかる。

出典

- 2~5ページ:掲載写真／一般財団法人消防防災科学センター「防災写真データベース」
- 2~5ページ:被害内容／内閣府「防災情報のページ」、復興庁「数字で見る復興」
- 6ページ:掲載写真・掲載内容／読売新聞社
- 11・12ページ:掲載内容／糸島市Webマップ